

聖書ギリシア語とゴート語の
対照研究 (1)
- 迂言的未来表現について (続)

鴨 瀬 昌 幸

考察

用例を検討してみると、動作主（第三者）の意志を話し手が推量しているもの（例文 5、6）と、動作主の意志に関係が無いものの 2 種に分類することが出来る。そして、動作主の意志に関係が無いものは、1)単なる未来の代用（例文 4、10）、2)近接未来（例文 2、3、7）、3)予定を表しているもの「、するはずである」（例文 1、8、9）の 3 種に細分できる。

B. *munan* + 不定詞

例文 11 Lc.10-1

Μετὰ δὲ ταῦτα ἀνέδειξεν ὁ κύριος ἑτέρους ἑβδομήκοντα δύο καὶ ἀπέστειλεν αὐτοὺς ἀνὰ δύο δύο πρὸ προσώπου αὐτοῦ εἰς πᾶσαν πόλιν καὶ τόπον οὗ ἠμελλεν αὐτοὺς ἔρχεσθαι.

μέλλω ἔρχομαι

直能未過 3 単 不中現

来る

Afaruþ-þan þata ustaiknida frauha jah anþarans sibuntehund jah insandida ins twans hanzuh faura andwairþja seinamma in all bourge jah stade, þadei munaida is gaggan.

munan gaggan

直能過 3 単 不

来る

その後、主はほかに 72 人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。

例文 12 LC.19-4

καὶ προδραμών εἰς τὸ ἔμπροσθεν ἀνέβη ἐπὶ συκομορέαν ἵνα ἴδῃ αὐτὸν
ὅτι ἐκεῖνης ἤμελλεν διέρχασθαι.

μέλλω διέρχομαι

直能未過 3 単 不能現

通過する

jah biḡragjands faur usstaig ana smakkabagm, ei gasehi ina, unte is
and ḡata munaida ḡairhgaggan.

munan ḡairhgaggan

直能過 3 単 不

通過する

それで、イエスを見るために、走って先回りし、いちじく桑の木に登った。
そこを通り過ぎようとしておられたからである。

例文 13 Jh.6-15

Ἰησοῦς οὖν γνοὺς ὅτι μέλλουσιν ἔρχεσθαι καὶ ἀρπάζειν αὐτὸν ἵνα
μέλλω ἔρχομαι ἀρπάξω

直能現 3 複 不中未来 不能現

来る 連れ去る

ποιήσωσιν βασιλέα, ἀνεχώρησεν πάλιν εἰς τὸ ὄρος αὐτοῦς μόνος.

iḡ Iesus kunnands ḡatei munaidedun usgaggan jah wilwan <ina> ei

munan usgaggan wilwan

直能過 3 複 来る 連れ去る

fawidedeina ina du ḡiudana, afiddja aftra in fairguni is ains.

イエスは、人々が来て、自分を王にするために連れて行こうとしているのを知り、ひとりでもた山に退かれた。

例文 14 Jh.14-22

λέγει αὐτῷ Ἰούδας, οὐχ ὁ Ἰσκαριώτης· κύριε, καὶ τί γέγονεν ὅτι
ἡμῖν μέλλεις ἐμφανίζειν σεαυτὸν καὶ οὐχὶ τῷ κόσμῳ;

μέλλω ἐμφανίζω

直能現 2 单 不能現

示す

paruh qar imma Iudas, ni sa Iskarjotes: frauja, ha warp, ei unsis
munais gabairhtjan þuk silban, ip þizai manasedai ni?

munan gabairhtjan

直能現 2 单 表す

イスカリオテではない方のユダが、「主よ、わたしたちには御自分を現わそ
うとなさるのに、世にはそうなさらないのは、なぜでしょうか」と言った。

考察

例文 11 から 14 まで全てが動作主の意志を表している。

C. haban +、不定詞

例文 15 Mc. 10-32

Ἦσαν δὲ ἐν τῇ ὁδῷ ἀναβαίνοντες εἰς Ἱεροσόλυμα, καὶ ἦν προάγων
αὐτοῦς ὁ Ἰησοῦς, καὶ ἔθαμβοῦντο, οἱ δὲ ἀκολουθοῦντο. καὶ παραλαβὼν
πάλιν τοὺς δώδεκα ἤρξατο αὐτοῖς λέγειν τὰ μέλλοντα αὐτῷ συμβαίνειν.

μέλλω συμβαίνω

現分中複対 不能現

起こる

wesunup-þan ana wiga gaggandans du Iairusaulwmai jah <was>
faurbigaggands ins Iesus, jah sildaleikidedun jah afarlaistjandans
faurhtai waurpun jah andnimands aftra þans twalif dugann im qipan
þoei habaidedun ina gadaban.

haban gadaban

直能過 3 複 不

起こる

一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び12人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。

例文 16 Jh.6-6

τοῦτο δὲ ἔλεγεν πειράζων αὐτόν· αὐτὸς γὰρ ἤδει τί ἔμελλεν ποιεῖν.

μέλλω ποιέω

直能未過3単 不能現

する

patuh pan qap fraisands ina; ip silba wissa patei habaida taujan.

haban taujan

直能過3単 不

する

こう言ったのは彼(=フィリポ)を試みるためであって、御自分では何をしようとしておられるか知っておられたのである。

例文 17 Jh.6-71

ἔλεγεν δὲ τὸν Ἰούδαν Σίμωνος Ἰσκαριώτου· οὗτος γὰρ ἔμελλεν

μέλλω

直能未過3単

παραδιδόναι αὐτόν, εἷς ἐκ τῶν δώδεκα.

παραδίδομι

不能現

渡す

qabuh pan pana Iudan Seimonis, Iskariotu, sa auk habaida ina

haban

直能過3単

galewjan, ains wisands pize twalibe.

galewjan

不

引き渡す

イスカリオテのシモンの子ユダのことを言われたのである。このユダは、1
2人の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていた。

考察

例文 16、17は動作主の意志ともとれるが、これらは例文 15と共に全て近接
未来を表していると考えられる。

なお、ここまでは、ギリシア語の μέλλω+不定詞構文は、ゴート語では助
動詞+不定詞で翻訳されているが、以下はそうではない例である。おそらく、
構文より意味を優先させたためと思われる。

D. anawairþs wisan + 不定詞

例文 18 1Ts.3-4

καὶ γὰρ ὅτε πρὸς ὑμᾶς ἦμεν, προελέγομεν ὑμῖν ὅτι μέλλομεν θλιβεσθαι,
μέλλω θλίβω
直能現 1 複 不受現
苦難にあう

καθὼς καὶ ἐλέγετο καὶ οὔδατε.

jah auk þan wesum at izwis, fauraqepum izwis þatei anawairþ was uns
wisan
直能過 3 単

du winnan agliþos, swaswe jah warþ jah witup.
winnan
不
苦しむ

あなたがたのもとにいたとき、わたしたちがやがて苦難に遭う事を、何度も
予告しましたが、あなたがたも知っているように、事実そのとおりになりま
した。

例文 19 1Tm.1-16

ἀλλὰ διὰ τοῦτο ἠλεήθην, ἵνα ἐν ἐμοὶ πρώτῳ ἐνδειξῆται Χριστὸς Ἰησοῦς τὴν ἄπασαν μακροθυμίαν πρὸς ὑποτύπωσιν τῶν μελλόντων πιστεῦειν ἐπ’

μέλλω πιστεῦω

現分男複属 不能現

信ずる

αὐτῷ εἰς ζωὴν αἰώνιον.

akei dubbe gaarmaips warp, ei in mis frumistamma ataugidedi Xristaus Iesus alla usbeisnein du frisahtai paim ize anawarpai wesun du wisan

直能過3複

galaubjan imma du libainai aiweinon.

galaubjan

信ずる

しかし、わたしがあわれみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。

考察

例文 18は予定を表していると考えられるが、例文 19は単に未来の代用であると思われる。

E. skaftjan sik + 不定詞

例文 20 Jh.12-4

λέγει δὲ Ἰούδας ὁ Ἰσκαριώτης εἰς ἐκ τῶν μαθητῶν αὐτοῦ, ὁ μέλλων

μέλλω

現分男单主

αὐτὸν παραδιδόναι·

παραδίδωμι

不能現

渡す

qap þan ains þize siponje is, Judas seimonis sa iskarjotes, izei
skaftida sik du galewjan ina:

skaftjan galewjan

不

引き渡す

弟子の一人で、後にイエスを裏切るイスカリオテのユダが言った。

考察

例文 20は、例文 17と同じく、近接未来を表しているとみなし得る。

F. wisan + 形容詞

例文 21 Lc.7-2

Ἐκατοντάρχου δέ τινος δοῦλος κακῶς ἔχων ἤμελλεν τελευτᾶν, ὅς ἦν

μέλλω τελευτάω

直能未過 3 単 不能現

死ぬ

αὐτῷ ἔντιμος.

hundafade þan sumis skalks siukands swultawairþja <was>, saei was

死にかけた wisan

直能過 3 単

imma swers.

ところで、ある百人隊長に重んじられている部下が、病気で死にかかっていた。

考察

例文 21は、近接未来を表していると思われる。

以上の結果をまとめて表にしてみると、次のようになる。

訳し分け	動作主の意志	動作主の意志を推量	近接未来	予定	単なる未来の代用
skulan + 不定詞		2	3	3	2
munan + 不定詞	4				
haban + 不定詞	1		2		
anawairps wisan + 不定詞				1	1
skaftjan sik + 不定詞				1	
wisan + 不定詞			1		

上記の表から、skulan と munan による訳し分けの原理がわかる。つまり、動作主の意志を示すためには、munan + 不定詞が用いられる。そして、動作主の意志が関与しない場合に、skulan + 不定詞が幅広く用いられる。意志を表すことはなく、せいぜいその意志を推量する用例が見いだされる程度である（例文5、6）。

その他の訳し分けの原理を除いては、いずれも動作主の意志とはかわりがないものだという事実を指摘するにとどめたい。

最後に、竹島(1984)によれば、古典ギリシア語において未来時制は過去－現在－未来という客観的な時間段階を表しているのではなく、話し手のモダリティを表している。そして、各人称毎にそれぞれ異なった意味を持つ、という。例えば3人称では、多くの場合、第三者に対する話し手の推量、まれに第三者に対する話し手の「意志」を聞き手に伝える。しかしながら、μέλλω + 不定詞構文においては、話し手の意志を示した用例は皆無である。また、

2人称では話し手の聞き手に対する「意志」、「要求」、「命令」、「脅迫」を聞き手に直接伝えるが、μέλλω + 不定詞にある2人称の例文では、そのような意味は見いだせなかった(例文14)。

次稿以降では、聖書ギリシア語の、未来「時制」について考察していきたいと思う。

参考文献

- Blass, F. (1949^o): Grammatik des neutestamentlichen Griechisch, Bearbeitet von A. Debrunner. Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht.
- Braune, W. (1961^{1o}): Gotische Grammatik, neu bearbeitet von E. A. Ebbinghaus. Tübingen: Max Niemeyer.
- Chigusa S. (千種眞一) (1989): 『ゴート語の聖書』東京: 大学書林
- Executive Committee of The Common Bible Translation (共同訳聖書実行委員会) (1989): 『聖書 新共同訳』東京: 日本聖書協会
- Inaba M. (稲葉満) et al. (1977): 『新約ギリシア語逆引辞典』東京: 山本書店
- Institute für neutestamentliche Textforschung und vom Rechenzentrum der Universität Münster (1987^o): Konkordanz zum Novum Testamentum Graece von Nestle-Aland, 26. Auflage, und zum Greek New Testament, 3rd Edition. Berlin und New York: Walter de Gruyter.
- Iwakuma N. (岩隈直一) (1979^o): 『新約ギリシア語辞典』東京: 山本書店
- Kamose M. (鴨瀬昌幸) (1989): 「聖書ギリシア語とゴート語の対照研究に関する一考察」『プロビレア』1号
- (1990): 「聖書ギリシア語とゴート語の対照研究(1) - 迂言的未来表現について」『プロビレア』2号
- Kanda T. (神田盾夫) (1964^o): 『新約聖書ギリシア語入門』東京: 岩波書店
- Mossé, F. (1942): Manuel de la langue gotique. Paris: Aubier.
- Nestle-aland (1979^{2o}): Greek-English New Testament, 26th rev. ed. Stuttgart: Deutsche Bibelgesellschaft.
- Nunn, H. P. V. (1951): A Short Syntax of New Testament Greek, Cambridge: Cambridge University Press.
- Smyth, H. W. (1972⁷): Greek Grammar, Rev. by G. M. Messing. Cambridge: Harvard University Press.
- Streitberg, W. (1971⁷): Die gotische Bibel. Heidelberg: Carl Winter.

Takesima T. (竹島俊之) (1984): 「古典ギリシャ語における未来時制についての一考察」『広島大学総合科学部紀要 V』第10巻

Wright, J. (1954²): Grammar of the Gothic Language. Oxford at the Clarendon Press.